

---

# 短歌ごっこ'10.如月

逸見

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

短歌ごっこ・10・如月

### 【Nコード】

N2668M

### 【作者名】

逸見

### 【あらすじ】

日常を詠んでいます

短歌の形式だけど、「短歌」と言い切ってしまうのはなんかおこがしい

そんな訳で「短歌ごっこ」です

モノクロの  
世界に色を  
さしていく  
一つまた一つ  
紡ぐ日常

痛いよな  
風の中ゆく  
帰り道  
寒さがゆるむ  
春を熱望

新しい  
化粧品ただ  
それだけで  
違う自分に  
なつた錯覚

探しては  
つなぎ合わせる  
時もある  
キモチの欠片と  
言葉の欠片

メガネかけ  
メガネを探す  
笑い話  
まさか自分が  
やらかそうとは

5 - 2 が  
1 にも 4 にも  
なるような  
人の心の  
不思議を思う

フル充電  
一日保たない  
ほど使い  
私はここに  
何を求める

笑っても  
泣いても悔いても  
焦っても  
一日はみな  
24 時間

何をする

あてなく過ぐす

日曜日

贅沢でもあり

つまらなくもあり

水たまり

蹴散らし車の通る音

小さな雨音

それだけの午後

イイヒトと

言われたならば

むずがゆく

ギゼンシャ 納得

しつつも憤慨

横書きで

絵文字の混ざる

ひとりごと

31音

気の向くままに

一点を

共有しては

離れ行く

直線 曲線

グラフの中で

ゆらゆらと

小さく炎

揺らしては

燃え続けてく

ろうそくの朱<sup>アカ</sup>

若い日に

書いたあれこれ

読み返す

進歩の跡は

さして見られず

坂道を

上がってるのか

下りてるか

時に戸惑う

不惑は越えても

頑固ゆえ

心のままに

素直にと

言うは易く

行い難し

窓越しの  
日差しあたたか  
午後三時  
のんびり楽しむ  
かたつむりな日

ポロポロと  
泣いてるように  
降り続く  
雨音優しく  
悲しい音色

うたかたに  
例えられし  
ひとときの  
全ては些細な  
出来事なれど

どの絵文字  
使えばいいか  
迷うけど  
怒りや泣くでは  
無いのは確か

明るめの

差し色一つ冬の日に  
透き通る水の  
蒼にも似たり

夕暮れに  
携帯越しに  
見る空は  
空のあおが  
違つて見える

言葉にも  
温度があるね  
色だって  
ある氣がしてる  
魔法の道具

フリースの  
あたたかさほどの  
おだやかな  
温もりがいい  
言葉の温度

耳にした  
スタンドからの  
有線を  
つい口ずさむ



信号待ち

塊は

誰もがどこかで

抱えてる

息苦しさや

生き苦しさも

航海を

続けているのか

漂流か

迷いながらも

漕ぐオール

雨粒の

数を数える

愚に似たり

そうだと分かって

いるのだけれど

穴を掘り

王様の耳は

ロバの耳

叫ぶがごとく

書き綴る歌

風の音

揺れる葉たちの

騒ぐ音

聞きつつ眠る

如月の夜

高僧も

未だに悟り

切れずと言う

煩惱 人の

代名詞なり

葉さえ無い

細い枝に

いくつもの

雨の花咲く

きらきらと

感情に

‘たかが’と‘されど’

入り混じる

いまだに青い

人間ですから

粘るよな

あの歌声が  
聴きたくて  
やっと見つけた  
流恋情歌

泣いてるか  
怒っているのか  
怯えたか  
けたたましく鳴く  
鳥の声聞く

幸せと  
辛い（ツライ）の文字が  
似てること  
なんか皮肉に  
感じてしまう

ちりりと  
音をたてて  
鳴る風鈴  
ほんの少しの  
風を受けて

無力なのは  
言葉じゃなくて  
私だと

一日で二度  
考えた夜

反応し  
微かに共鳴  
し合ってる  
いくつもの音  
静かに響く

寒い日は  
こたつ布団にくるまって  
亀な生活  
もぞもぞもぞと

ネジを巻き  
またネジを巻く  
オルゴール  
途中で途切れた  
曲 淋しげで

遠い地の  
天気予報を  
見たりする  
明日も寒く  
なりそうだね

ここではない  
どこか遠くの世界へと  
行った気がした  
一面の霧

もう少し  
現役でいて  
奥行きも  
趣もある  
昭和のテレビ

それぞれの  
見えぬラインの  
中 時に  
垣間見せるよ  
見えぬ世界で

豚こまと  
ピーマン卵  
鮭切り身  
レタスにきゅうり  
メニユーに悩む

感情と  
理屈はちよつと

ズレている  
心と頭の  
回路は違うね

目覚めても  
不快な感情  
だけ残る  
夢の後の  
寝付けぬ時間

大きくも  
小さくもなる  
心の力オス  
晴れの日に出る  
雲にも似てる

音楽と  
文字とタバコと  
コーヒーと  
たまにスイーツ  
まったりタイム

春雨は  
少し胸に  
ひっかかる  
好きとは言えない

嫌いじゃないけど

聞くたびに

なんか納得

してしまう

「これでいいのだ」

「これでいいのだ」

菜の花の

黄色に梅の

紅白と

桜のピンク

春色模様

春は色

夏には日差し

秋は風

冬は落ち葉で

感じる季節

無くしても

ひよっとしたらは

捨てられない

未練のかたまり

片割れピアス

盛りまで  
あとひと月の  
はだかんぼ  
早くほころべ  
小さな蕾



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2668m/>

---

短歌ごっこ'10.如月

2010年10月15日22時49分発行